

可児市子どもの読書活動推進計画（第4次）（案）についてのパブリックコメント

意見募集期間 令和2年1月10日（金）～1月30日（木）

意見提出 1人 3件

いただいたご意見の内容と市の考え方は次のとおりです。

No.	意見	市の考え方
1	<p>4. 子どもの読書活動の推進のための方策 4-2. 地域における子どもの読書活動の推進</p> <p>取組4 子育て健康プラザ マーノと図書館の連携(15 ページ)</p> <p>マーノでは高校生がよく遊んだり勉強したりしています。図書館の YA コーナーを充実するよりも、子ども達の集まる場所に図書を移して、図書の利用率を上げると良いと思います。そういう意味ではアーラへも図書を移して勉強している子ども達に本を利用してもらうと良いと思います。YA 分館の機能をマーノ、アーラに整備するよう提案します。</p>	<p>マーノと図書館は、双方の利点を生かした相互利用の連携を図ることとしつつ（P15 取組 4）、図書館における取組みとして、YA（後記注釈参照）など中高生が利用しやすい図書の選書と展示（P18 取組 8）を進めていきます。</p> <p>現状として、マーノでは「みんなの書齋」に子育てと健康に関する図書が、「中央児童センターの図書室」に児童書があり、アーラでは「情報コーナー」に文化芸術に特化した図書が備えられています。</p> <p>これらは、各施設の設置目的に沿った図書を来館者に閲覧してもらう趣旨で設置されており、貸出しもされていません。職員配置、貸出システム、スペース確保等の管理面や施設の性格から、マーノやアーラで YA 図書の貸出しを行うことは困難と考えており、マーノやアーラ、中学校、高等学校に、図書館に有る中高生向けのおすすめ本のチラシ等を設置し、図書館の利用を促すことで子どもの読書推進を図っていきます。</p> <p>つきましては、本計画の（P18 取組 8）の中で、中高生向けのおすすめ本のチラシ等の配布先を「各学校」としてありますが、<u>マーノやアーラも含めるという意味で配布先を「各学校等」に改めます。</u></p> <p>なお、マーノやアーラには YA 図書に当たるものもあり閲覧できますので、ご利用ください。</p> <p>図書館としては、今後も中高生の読書推進のために、本館や分館の YA コーナーの蔵書の充実やそのコーナーを際立たせる工夫を行っていきます。また、図書館から各中学校や各高等学校に対して、YA 図書の団体貸出等のサービスを行っていきます。</p> <p>※注釈 YA（ヤングアダルト。だいたい 13 歳から 19 歳の読者層のことをいう。）</p> <p style="text-align: right;">【 <u>下線部を修正する</u> 】</p>

2	<p>4. 子どもの読書活動の推進のための方策 4-5. 幼稚園・保育園における子どもの読書活動の推進 取組1 園の本等の充実(22 ページ)</p> <p>資料 P40 を見ると幼稚園からいろいろ要望が出ています。積極的に対応してほしいです。絵本パック詰めサービスを活用してもらい、大型絵本の貸し出しも積極的にすべきです。大きな図書館移動車を使わなくても、図書館員が各幼保に絵本を持って回ればよいのではないのでしょうか。人権啓発センターでは、図書をパックに詰めて各小中学校に運んで読んでもらっていました。</p>	<p>「気軽に使える絵本パック詰めサービス」は、リユース本の対象となる絵本や紙芝居を、図書館職員が各キッズクラブを回って配達するものです。</p> <p>図書館の「団体貸出」や「気軽に使える絵本パック詰めサービス」などの利用により、幼稚園・保育園への図書の提供を充実する（P22 取組 1）ため、このサービスを保育園や幼稚園にも拡大していきます。</p> <p>その他にも「大型絵本の貸出」等の様々な図書サービスがありますので、幼稚園・保育園の要望にできる限り応え、各種サービスを提供していきます。</p> <p>つきましては、本計画の（P22 取組 1）の<u>図書館からの図書の提供の中に「大型絵本の貸出」を追記します。</u></p> <p style="text-align: right;">【 <u>下線部を修正する</u> 】</p>
3	<p>4. 子どもの読書活動の推進のための方策 4-3. 図書館における子どもの読書活動の推進 取組 10 電子書籍の導入の検討(19 ページ)</p> <p>今は、大人も子どももスマホでかなりの調べ物ができます。図書館にわざわざ電子図鑑や音声付きの電子書籍の設置は必要ないと思います。静かな環境が必要な図書館にふさわしくありません。</p>	<p>電子書籍については、導入に向けて情報収集を行い、計画的に進めていきます（P19 取組 10）。</p> <p>電子書籍の閲覧方法については、ご自分のパソコンやスマホ、タブレット等を使って、自宅等で楽しんでいただくことを想定しています。</p> <p>電子書籍の利点として、動画が見えたり音声を聞くことができる他、図書館に来館せずに書籍が読めるため、ビジネスパーソンや子育て中の方、介護をしている方、体の不自由な方等にとって大変便利であるということが言えますが、電子書籍はシステムの導入費用が高価であること、著作権が壁となって新しい書籍が読めないこと、紙面の書籍と比べて登録されている電子書籍の数が少ないこと等、課題がありますので、今後よく状況を見て、導入について検討をしていきます。</p> <p>したがって、現在、電子図鑑や音声付きの電子書籍を館内に設置して閲覧していただくことは考えていません。</p> <p style="text-align: right;">【 計画の変更 無し 】</p>